

報告

展示会見学：キッズフェスタ 2016 は子どものモーターショー

株式会社 古林療育技術研究所 古林 紀哉

会場に入った第一印象「カッコいい!」。

1. はじめに

最近知り合った先生から「古林さんはキッズフェスタには行かないのですか?」と声をかけられたことが、私がキッズフェスタ 2016 - 第 15 回子どもの福祉用具展 (2016/4/16-17, 於 TRC 東京流通センター) に行ったきっかけだった。昨年末に私は知的障害児者支援グッズの福祉ベンチャーを起業したものの、この展示会のことは全く知らなかったの、とにかく情報収集のために出かけてみた。

私は東京ビッグサイトの展示会には何度も行ったことがあるが、東京流通センターでの展示会は初めてだった。会場は東京モノレールの駅からほぼ直結しているにもかかわらず、人の気配はチラホラ。土曜日だからかと勝手に納得して、会場に歩いて行った。

2. 会場の様子

事前調査で、この展示会は主に、車いす、姿勢保持具、移動用具、寝具、スイッチ等の一般向け展示会とはわかっていたが、会場に入ると予想を裏切る華やかさに驚かされた。

トイザラス店舗 2 個分ぐらいの面積の展示会場では、その半分程度が車いす関連の展示だった。車いすのメーカーは 10 社ほどが出展。私の三男 (自閉症) が通う養護学校には肢体不自由部門もあるので、最近の子ども用車いすが進化しているのは知っていたものの、キッズフェスタで見る車いすはもっと先を行っていると感じた。



写真 1 最初に目に入った車いす
私の福祉用器具のイメージを一新した衝撃的な新モデルの車いす。



写真 2 姿勢保持を考えた子供用いす
8 年前三男が養護学校小学部に入学した時、担任の先生が手作りしてくれたいすを思いだす。

展示されている車いすのみならず、来場者のお子さんが乗って来ている車いすがそもそもハイセンスである。また展示には、車いすのタイヤの洗浄機 (写真 3)、車いすに乗ったまま乗車できる乗用車 (写真 4) などもあった。

展示会場ではもちろん車いすに試乗が出来るの

株式会社 古林療育技術研究所
〒 225-0002 横浜市青葉区美しが丘 1-13-10
吉村ビル 103



写真3 車いすの洗車機

車いすで外出すると確かにタイヤを洗うことも必要になると、私自身も納得。



写真4 車いすのまま乗車できるワンボックス
自動車を改造しなくても、特別仕様車が存在していることに感嘆した。



写真5 電動の車いす

展示会場には電動車いすで一人で来場している方もいた。

で、モーターショーとまでは行かないものの、多くのご家族が試乗を楽しみ、さながら新車発表会の雰囲気であった。

一般の人も知っているブランドの系列メーカー、福祉機器の専門メーカー、輸入代理店など10社ほどが競い合って、重度障害のお子さん向けの車いすの開発を進めていることが感じられた。車いすだけでなく姿勢保持具、移動器具、食事補助具などメーカーが競い合っているカテゴリーが幾つもあることがわかる展示会である。

3. 市場の役割

福祉用具の分野はニッチな市場であるが、メーカー数社が競い合って参入することで成長していく好例だろう。

もちろん私の知らない苦勞がたくさんあることも承知している。今回見学した福祉用具には、技術標準化、特許、安全基準が多く蓄積されていることは容易に想像できる。利用者は構造上の課題や製造方法などの難しい問題を気にすることなく、製品選びに専念できる。利用者の役割は用具の使い勝手や困っていることをメーカーに伝えることであろう。ほとんどの製品は10万円を超えるものであるが、それだけの付加価値を利用者に提供している証拠でもあろう。

私の主領域である知的障害児向け福祉用具では、他の目的の用具の流用や手作りの慣習が未だに主流である。専門メーカーがほとんど存在しないため、競争や改良が起こらず、価格帯すら存在しない。

この展示会では、工学の恩恵を受けると当事者の得られる利益が増大していくことを強く感じさせられた。

4. おわりに

いろいろな想いを巡らせながら私は滞在時間2時間ほどで展示会場を後にしたが、その時に一つの謎が解けた。来場者のほとんどは自家用車で来ていたのである。東京流通センターは駐車場から展示会場までがバリアフリーで移動できる。モノレールで来場する人は少ないわけだ。